

日本海を見晴らす棚田百選  
鉄穴流しの跡は天空に続く

# 室谷の棚田



島根県浜田市

平野部の乏しい石見国の基幹産業は石州半紙と呼ばれた浜田・津和野両藩の和紙と砂鉄を原料とするたたら製鉄でした。けれども、出雲に比べて石見のたたら製鉄は民営のためか小規模のものが多かったようです。

明治13年(1880)刊行の『島根県一覽概要』と、同年刊行清水清太郎著の『石見国地誌略』を参考にすると、石見国の物産として紙があげられているのは<sup>おうち なか みの かのあし</sup>邑智・那賀・美濃・鹿足郡で、鉄は<sup>いずわはがね</sup>邑智・那賀郡となっています。中世において久永荘(現・邑智郡邑南町)から出荷される出羽鋼は、日本刀の原料である和鋼・玉鋼の最高級の鉄として中央で知られていました。この玉鋼を生み出す砂鉄を取り出すために行われたのが<sup>かんな</sup>鉄穴流しでした。

日本の棚田百選のひとつ浜田市三隅町井野地区には、江戸時代、津和野藩と浜田藩の領地があり、境界線となっていたのが折居川でした。水田に適した土地がなくても、<sup>かんな</sup>鉄穴流しには風化花崗岩と大量の水さえあればできます。他の中国山地のたたら場と同様、那賀郡でも良質の砂鉄が採れ、その跡に農地が生み出されました。これが鉄穴流し込み田です。日本棚田百選のひとつ広島県の井仁の棚田は、天に伸びていった棚田で、開墾中に出てきた石を利用して石積みの棚田にされたのでした。棚田にもそれぞれの成り立ちがあるようです。

室谷の棚田の多くは、石積みでなく<sup>どほ</sup>土坡で造られています。これは砂鉄を採取するために行なわれた鉄穴流しで、土砂を河川に流さない方法として、窪地に土砂を流し込み、その後を田にしたからだそうです。そして、その土坡の草は牛の餌となりました。室谷の棚田は、昭和50年代の航空写真から確認して約4,500枚です。国内でも最大規模と評価されていますが、現在はその内の約1,000枚が活用されています。

室谷は、標高599mの大麻山の中腹に位置し、大麻山を源とする水資源を活用して、エコ栽培による米づくりを進めています。昔から取り組まれて来た土づくりの成果と昼夜の気温差などから美味しいお米が収穫されるのです。



東斜面からの展望。  
上方に見えるのは日本海。平成11年に日本の棚田百選に選ばれた。

## 位置図



## はざかけの棚田

室谷の棚田は昭和50年代の航空写真により約4,500枚が確認されており、この枚数は国内でも最大規模と評価されている。現在はその内の約1,000枚が活用されている。



## 大麻山神社拝殿

千百年の歴史を有する町内唯一の式内社。御祭神は大麻彦命・猿田彦命・天日鷲命とされている。



## 社務所北側の「神苑磐座磐境之庭」

巨石の石組と周囲に植えられたつつじとさつきが見事である。